

「涙出た」美映像の巻圧

列館映画、公開全国

へ町な遙

〜ジスタル倉吉

舞台あいさつに
主要キャストら

倉吉の魅力語る

昭和30年代の倉吉市が舞台の映画『遙かな町へ』が9日、公開初日を迎えた。市内の映画館には開館前から上映を待ち望んでいた市民らが列をつくり、スクリーンに映し出されるふるさとの映像美に酔いしれた。主演の大谷亮平さん(46)らは東京で舞台あいさつに臨み、作品と倉吉に寄せる思いを語った。

(井田慎一、井上雅大)

倉吉シネマエポック(同 田さち子さん(77)は「昭和市山根)では、午前9時の倉吉がどう再現されているのか楽しみ」と待ち切れず、開場を待った。同市ない様子で、上映後は「(感涙経寺町2丁目の主婦、牧動で)涙が出た」と目頭を拭き、余韻に浸った。

同館には団体での鑑賞予約も入っているといい、吉田翼副支店長は「期待の高さを感じる。倉吉の盛り上がりにつながってほしい」とヒットを願った。

東京都内の劇場では、大谷さんや戸田菜穂さん(52)、滝藤賢一さん(49)ら主要キャストが舞台あいさつで作品を猛アツシユ。大谷さんが「見終わった後に心が洗われるような作品」と見どころを紹介すると、戸田さんと滝藤さんは「漫画から飛び出したようなすてきな場所」皆さん、とても親切ななど、撮影を振り返りながら倉吉の魅力を語った。会場に駆け付けた鳥取県の平井伸治知事は「映画の

舞台が昔のまま残っている。本当の昭和を見に来てほしい」と倉吉への来訪を呼びかけた。

県内ではこの日、鳥取シネマ(鳥取市)でも上映がスタート。MOVIX日吉津(日吉津村)は、11月6日から上映する。



開館と同時に受付前で列を作る来館者＝9日、倉吉市山根の倉吉シネマエポック